年間授業計画

高等学校 令和８年度（２学年用） 教科 国語 科目 論理国語 年間授業計画

教　科：　国語　　科　目：　論理国語　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　2 学年　A　組～　F　組

教科担当者：　(A組：古宮)　(B組：大倉)　(C組：大倉)　(D組：大倉)　(E組：大倉)　(F組：大倉)

使用教科書：　(　筑摩書房「論理国語」　)

教科　**国語**　の目標：

【知識及び技能】　現代の社会に必要な母国語としての日本語の知識や技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】　他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】　我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目　論理国語　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
現代の社会に必要な母国語としての日本語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	領域 話聞	領域 書	領域 読	観点別 知	観点別 思	観点別 態	配当時数
1学期	「架橋することば」 ことばの性質とともに、日常生活で感じた小さな違和感や気づきに問題を見つけ、考えを深めていく筆者の思考のありかたを理解する。	「アイオワの玉葱」長田弘 母語を意識し、他者へとつながることばの力を学ぶ。	【知識及び技能】 現代の実社会に必要な母国語としての日本語に必要な知識や技能を身に付けている。 【思考力・判断力・表現力等】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。			○	○	○	○	4
	「架橋することば」 本文の論旨を踏まえて物語作品を読み、私たちが物語のどのような点について、どのような「解釈」を行いながら読んでいるかを理解する。	「物語るという欲望」内田樹 物語を受容する際に行われる解釈行為について学ぶ。			○		○	○	○	5
	定期考査				○		○	○	○	1
	「日常の中の論点」 本文の論理構成を追い、人間と世界との多様な関係について考え、地図についての価値基準に着目した比較・分析を理解する。	「地図の想像力」若林幹夫 情報の信頼性や「意味」を吟味する力をつける。		○			○	○	○	4
	「〈私〉のいる場所」 「近代」が生み出してきた思考や世界観について遠近法を通じて「主体」と「客体」として位置づけられたものについて理解する。	「近代の成立――遠近法」橋爪大三郎 思考の枠組みを見直し、自由な思考で論じる力を育てる。			○		○	○	○	6
	「〈私〉のいる場所」 統計の数字からどのようなことが読み取れるか、また数字から分かることと分からないことを理解する。	「数字化される世界」オリヴィエ・レイ　池畑奈央子訳 数字にふりまわされずに数字を使いこなす實保を学ぶ。			○		○	○	○	5
	定期考査				○		○	○	○	1
2学期	「変貌する時代、変貌する人間」 この講演があった当時の日本社会にはどのような時代背景があり、その問題がのちの社会に与えた影響を理解する。	「変貌する聖女」川島慶子 書き換えられるキュリー夫人の伝記と変容する女性観との連関をジェンダーの視点から理解する。	【知識及び技能】 現代の実社会に必要な母国語としての日本語に必要な知識や技能を身に付けている。 【思考力・判断力・表現力等】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	○			○	○	○	6
	「〈伝統〉を見つめ直す」 「模倣」と「なぞり」という二つの習得方法について考察し、「型」と「形」を重視する日本的な芸能の伝承方法について理解する。	「模倣と『なぞり』」尼ヶ崎彬 具体例に基づいて論を構成する力を身に着ける。		○			○	○	○	6
	定期考査				○		○	○	○	1
	「現代という課題」 治療において「トリアージ」が導入されることによって、明確でない「生」の問題が合理的に正しい選択をすることが可能になることを通じて、この社会のでの正義の変化と自由が失われていくことを理解する。	「トリアージ社会」船木亨 ことばから社会の姿を考える。		○			○	○	○	5
	「世界を視る位置」 一般的な貧困の自己責任論と筆者の考える貧困の理由とを対比させ、社会の貧困問題の本質がどこにあるのかを理解する。	「貧困は自己責任なのか」湯浅誠 新しい概念を用いて、社会の現状を分析する力を身に着ける。			○		○	○	○	5
	「〈伝統〉を見つめ直す」 ソメイヨシノと人間の立場を逆転させることで、視点を反転させる思考が既存の関係を相対化することになるという「システム論」の基本的な考え方を理解する。	「桜が創った『日本』」佐藤俊樹 視点を反転させて物事の見方を変える思考方法を学ぶ。				○	○	○	○	4
	定期考査				○		○	○	○	1
3学期	「〈私〉をひらくために」 「である」と「する」という二つの価値判断の基準が、そのまま封建社会から近代的民主主義社会への変遷に対応していることを知るとともに、それが円滑にいかなかった日本社会のどこに問題があり、またどのような弊害をもたらしているかを理解する。	「『である』ことと『する』こと」丸山眞男 明治時代という過渡期を経てどのような価値観の転換があったを言葉の使い方を吟味することで理解する力を身に着ける。	【知識及び技能】 現代の実社会に必要な母国語としての日本語に必要な知識や技能を身に付けている。 【思考力・判断力・表現力等】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	○			○	○	○	7
	「〈私〉をひらくために」 ビッグデータやAIの活用が生み出すレーティングが各個人に向けられることによって、個人の主体性に代わって自己が「真理の体制」に統治されていく可能性について理解する。	「ビッグデータ時代の『生』の技法」柴田邦臣 情報技術の進展は人間の「生」をどう変えるかを、経験を見つめ直すことで問を深めていく力を身に着ける。			○		○	○	○	5
	「変貌する時代、変貌する人間」 この講演があった当時の日本社会にはどのような時代背景があり、その問題がのちの社会に与えた影響を理解する。	「現代日本の開化」夏目漱石 時代背景を踏まえたうえで歴史的な視点の大切さを学ぶ。		○			○	○	○	3
	定期考査				○		○	○	○	1
									合計	70